

# けんざい 監査の四季

第25回

鯖江市代表監査委員

川中清司

## これからの眼鏡産地(3)

### 産業ビジョンが指針を示す

”市場発想のモノづくり”を核にしたビジネスモデルを実現しよう。

鯖江眼鏡協会と鯖江市が昨年作った「眼鏡産業ビジョン2003」で、こう訴えました。

ビジネスモデルとは、いわば産業のあり方、商売の仕方、次のような具体策を提案しています。

#### ○消費者ニーズを反映した商品

東海大学の唐津一教授は、日本に来た外国人観光客が、良いデザインの眼鏡を見せて、「日本に行くと顔に合わせた眼鏡を作ってくれる」と自慢した話を紹介しています。

消費者が欲しい眼鏡をつくるために消費者参加型コンペや、レンズメーカーやファッションリーダーと提携した商品づくり。

「新しい生活スタイル」を提案して市場を創造しよう。

陶磁器の有田やIT産業のシリコンバレーのように、世界有数のめがね情報集積地として、広く知られる眼鏡のメッカ（あこがれの地）鯖江の、ブランドディング（商標化）を目指そう。

#### ○流通販売の構造を再構築

「良い眼鏡を作れば、売れて収益が上がる」という仕組みをつくる。そのため、鯖江主導の流通拠点を主要都市に設け販路を拡大しよう。小売店を対象に産地でワークショップや、商談会、巨大プロジェクトを立ち上げよう。

目と眼鏡の国際フォーラムやサミット、商談会を鯖江で定例開催。

2005年の眼鏡産地の百周年をチャンスに国際的な眼鏡イベントを開こう。

#### ○新素材や製造・加工の開発

新しい眼鏡の素材を開発しよう。タンを眼鏡以外の分野に活用して新商品を作ろう。



新たな産地戦略  
「眼鏡ビジョン2003」